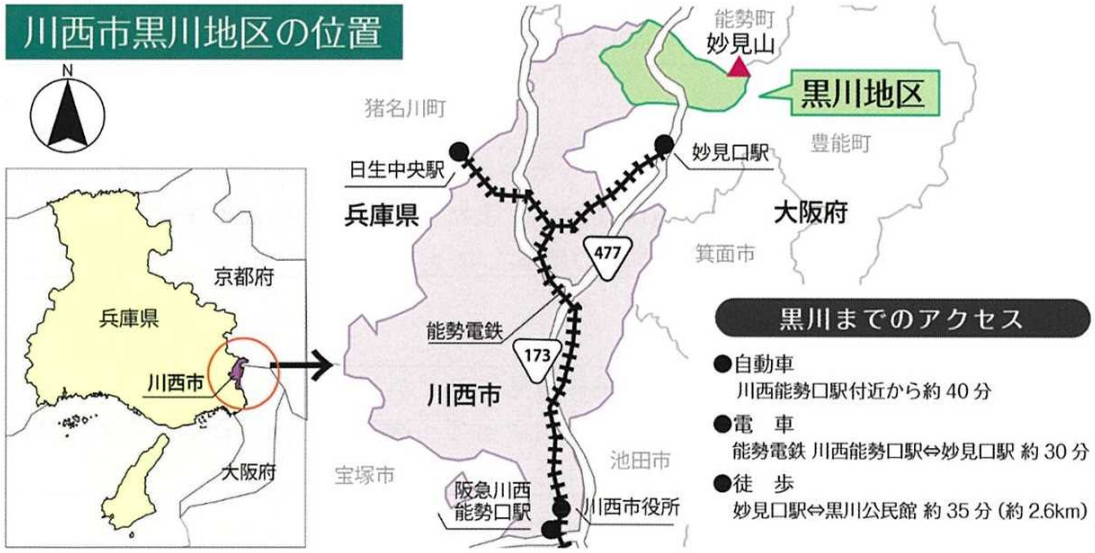
黒川はなぜ日本一の里山なのでしょうか？
その理由の確認に服部先生と歩きましょう！

第５回エコツアー概要

日　　時　2019 年（令和元年）11 月 16 日（土）9：30～16：30　小雨決行
開催場所　川西市　黒川地区
集　　合　能勢電鉄妙見線妙見口駅出口　9：30 集合・受付
解散場所　能勢電鉄妙見口駅 16：30 頃予定
参加人数　20 名(先着順)
講　　師　兵庫県立大学　服部保名誉教授
参加費　　無料（但し、交通費は自己負担、ケーブルカー・リフトに乗車します。）
　　注：のせでん 妙見の森 フリーパス（1,200 円）の購入がお得で便利です。
注意事項　弁当、飲み物持参　歩きやすい服装
申込締切　令和元年 11 月 9 日(金)

第５回エコツアーは、黒川の里山がなぜ日本一なのか、服部先生のご案内で、ブナ林、照葉樹林、台場クヌギ林などの現地での見学と先生の座学での学習を通して、その７つの理由（裏面参照）を確認しようとするものです。奮ってご参加ください。



阪神北地域
ビジョン委員会

申込先　阪神北県民局 地域ビジョン委員会 NSC 倶楽部
E-mail:h-river21@bcb.bai.ne.jp(河上)
携帯:090-1249-5544
TEL(FAX):072-784-2504
要連絡：住所・氏名・性別・年齢・電話

きらっと　おいでよ!ときめきの4市1町へ
阪神北オータムフェスタ 2019

主催　兵庫県 阪神北地域ビジョン委員会 NSC 倶楽部
後援　兵庫県阪神北県民局

黒川の里山林が日本一である７つの理由

なぜ黒川の里山林が日本一なのでしょうか？ その**理由**は、他の地域で絶滅した里山林が、現在も続いているからといったことだけではなく、次のような**７ つの理由**があるからです。

理由１：歴史性・記録性

里山林の由来を少なくとも 16 世紀まで辿ることができるのは、黒川以外ではほとんどありません。しかも、**古書籍の炭の記述**（一庫炭（池田炭）の産地、断面が菊花状で菊炭とよばれたこと、台場クヌギが存在したことなど）（写真１：参照）より、一庫を中心とする地域で生産された炭は日本一であることがわかります。

理由２：文化性

豊臣秀吉や千利休が、茶会で一庫炭を賞用した一庫炭（菊炭、写真２：参照）は**茶道との歴史的な結びつき**から、現在も道具炭生産が続けられています。木炭を生産することは里山林を利用することですから、茶道という日本の文化が里山林という地域の遺産を守ったと言えます。

理由３：景観性

本当の意味での里山林は、伐採直後の林分から伐採直前の林分まで様々な林齢の林分が**パッチワーク状**に分布（図１参照）していますが、黒川以外では、本来の里山景観を見ることがたいへん難しくなっています。

理由４：特異性（台場クヌギ）

猪名川上流域でのクヌギ林の萌芽更新は、地際より高さ 0.5～2m で幹を伐って、高い切り株（台）を作り、その台から発生した萌芽幹を約 10 年で伐採・利用を繰り返すという、**台場クヌギ**（写真３：参照）と呼ばれ、日本森林学会の林業遺産に登録されています。

写真３ 黒川奥瀧谷の台場クヌギ

理由５：生物多様性（クヌギ林の種多様性）

クヌギ林はたくさんの昆虫の生息の場となっています。クヌギ林が人工林に由来するとしても、たくさんの生物が生育・生息できる**生態系を形成**しているのは、たいへん興味深いことです。

理由６：生物多様性（群落の多様性）

黒川には、クヌギ林だけではなく、コナラ林、アカマツ林、アラカシ林などの里山林も分布しており、里山林の多様性からみると、これらの３ タイプの樹林の存在も大切です。また、里山林ではありませんが、エドヒガンとエノキが各々単生あるいは群生する**群落の多様性が高い地域**となっています。

理由７：生物多様性（照葉樹林、夏緑樹林）

黒川では日本一の里山林と同時に自然林の照葉樹林、夏緑樹林を見ることができます。妙見山の麓にある八幡神社の**照葉樹林**と山頂の**夏緑樹林**という２ つの自然林の存在によって二次林である「日本一の里山林」の特徴がより鮮明に映し出されます。

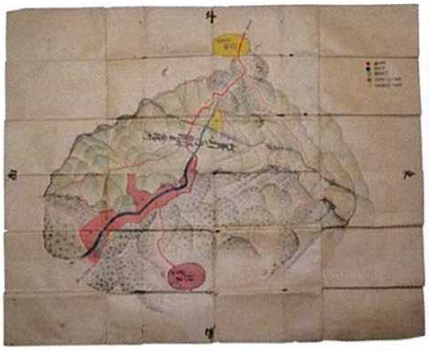


写真１ 稲地村と山論、立会絵図

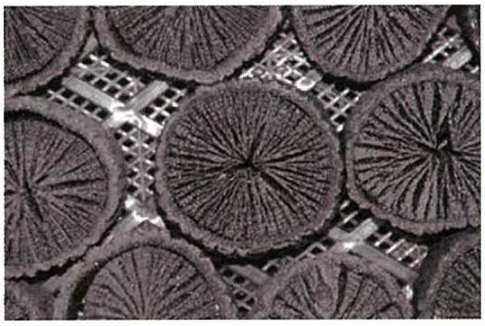


写真２ 一庫炭の断面（菊花状）

図１ パッチワーク状植生景観